



川崎博也会頭

神商議会議頭 切り札は木製名刺

似顔絵刺しゅう入り 国際交流に一役

神戸商工会議所の川崎博也会頭（神戸製鋼所特任顧問）が今夏、ベトナムを訪問した。同国と神戸の経済交流を促進するのが目的で、その際、自身の似顔絵の刺しゅうが入った木製の名刺を現地の要人に手渡した。神戸・長田の中小企業2社が共同製作した特注品。両社の技術力にほれ込んだ川崎氏のアイデアで製作が決まった。川崎氏は国内外の訪問先でこの名刺を配っており、神戸のPRに一役買っている。

（高見雄樹）

長田の中小企業2社に特注

今年7月、ベトナムの首里合わせの後、レーザー光も服メーカーの製品を手がけ、現在はインターネットでオーダーメイドの刺しゅうを注文できるオンラインサイトを「刺しゅう.com」を運営する。

名刺は薄さ0.5ミリ。刺しゅうを担当したのは、1933（昭和8）年創業の金川刺繍（神戸市長庫県産木材のシートと貼田区。かつては大手子ど

薄いかならずは反り返りやすく、伸ばす作業が必要以上に、表面が割れることもある。試行錯誤の末に完成させたという。レーザー加工を担ったのは、95年に発足した機械設計のエム・エム・エス（同）だ。2017年ごろに新規事業「神戸レーザーファクトリー」を立ち上げ、木やアクリル板などに彫刻するサービスを始めた。同社によると、刺しゅうされたかならずは薄いため、レーザーで熱を当て過ぎると穴が開いたり、焦げが出て「やに」が出たりしてし術が求められたという。

「誇れる技術」とほれ込み

特製名刺ができるきっかけは今年1月、神戸市長田区や兵庫区の町工場などを一般公開し、設備などに触れてもらうイベント「開工神戸」だった。神戸商工会議所や神戸市などでつくる実行委員会が昨年からの開き、33社が参加した。川崎博也氏も精力的に工場を回った。

「この技術はすごい」。川崎氏が特に長い間、足を止めたのが、両社の工場だった。神戸製鋼所では製鉄所の設備を担当するエンジニアとして実績を積み、加古川製鉄所副所長などを務めた。ものづくりの最前線に身を置いた経験から「神戸ならではの誇れる技術だ」と確信したという。

川崎氏のアイデアで生まれた唯一無二の名刺。「神戸空港を通じた経済交流の拡大」を目指し、国内外の経済団体を次々に訪問する同氏にとって、コミュニケーションのきっかけになる重要アイテムになっている。

（高見雄樹）



神戸商工会議所の川崎博也会頭がベトナム商工連盟のグエン・カン・ビン副会頭に手渡した名刺。厚さは0.5ミリ（神商議提供）

神鋼のエンジニア出身 川崎氏